

北海道旭川農業高等学校 森林科学科

森林資源活用班 3年 立崎 司・森 修平 2年 打矢歩夢

## 研究の背景・目的

「木育」が、木を身近に使っていくことを通じて、「人」と「木」と「森」との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的として、北海道で生まれ今年で13年目。日頃から森林について学習している私たち自身が木を知り、森を伝え続けることで自分たちの変化も多くの人に伝えてきた活動も今年で7年目となります。しかしながら、私たちの調査では「木育」認知度は24%と低く、北海道の長期目標である80%に遠く及んでいません。そこで活動を通して「木育」をたくさんの方に知ってもらうための方法を検討しました。私たちは、班員の「森に入り木に触れることで、五感が敏感になるね。」という言葉から、今年度の活動コンセプトを「五感を刺激するツールの開発」として、木育教室を充実させることにしました。

## 研究の内容・成果

## 01 五感を刺激するツールの開発

旭川市青年会議所の地域助成を受け、農業高校NPO法人もりねっと北海道、旭川家具職人アイスプロジェクト代表小助川さんの三者協働でツールの開発を実施。作成コンセプトは「いつでもどこでも学べるもの」「子供達の五感に響くもの」の2点。「こども」と「森」を繋いでいこうという意味を込めて「コドモリ箱」と名づけ、学習ツールとそれらを入れる箱を作成した。

なお、箱はミズナラやエンジュなど8種類の樹木を使い、また安全のため釘を使わず接着剤と木の棒で固定した。

## 02 木育教室の充実

地域幼稚園年長組55名を招いての木育教室は日程を開けずに開催。また子ども達の変化を見たいという保護者の声を活かし授業参観日を2回実施。その上で今年度作成してきた木育ツールとプログラムを活かして**五感を使う活動**を行った。特に最終回の5回目では、完成したコドモリ箱を自由に触ってもらった後、はっぱカードで遊びながら、今年関わった樹木や活動について園児・高校生全員で振り返った。また2回の保護者参観日には60名近い方が参加され、木育活動への関心の高さを実感することができた。

## 03 まとめ(評価)

5回の木育教室では園児に五感をフルに使う中で何かを発見・体験しながら、木や森林に親しんでもらい、園児保護者の97%からも説明や教え方がわかりやすかったとの高い評価をいただきました。

また日本森林学会高校生ポスター発表での特別賞受賞や上川木育フォーラムなどで報告をさせてもらうなど啓発活動も積極的に行い、今年度の調査では木育認知度は54.5%と上がっていました。

## 今後の展開

木育の認知度は上がってきましたが、その内容はまだ充分には理解されていないことがわかりました。次年度は完成したコドモリ箱を幼稚園や小学校などの公共施設に置かせてもらい、木育プログラムを実践する中で、「森」と「人」をしっかりとつないで、木育の思いをより多くの人に伝えていきたいと思います。



## ①「視覚」＝「はっぱカード」

様々な葉をラミネートし、その特徴を視覚から感じてもらう



## ②「聴覚」＝「手作り木琴」

木で音階を作り、耳から木を感じてもらう



## ③「嗅覚」＝「10種の木材」

木材をカンナで削り、木の様々な匂いを感じてもらう



## ④「触覚」＝「樹木輪切り」

やすりをかけたり、樹皮を触るなど木の違いを感じてもらう



新緑1回目(5月30日) 初夏2回目(7月4・5日) 盛夏3回目(8月29・31日)

- ①視覚:見本林散歩
- ②触覚:植樹
- ③視覚:ネイチャーゲーム



- ①触・嗅覚:下枝払い
- ②視覚:木のスケッチ
- ③お弁当



- ①聴覚:木琴作り
- ②五感:外遊び
- ※保護者参観



秋4回目(11月1・11日)

- ①触覚:落ち葉プール
- ②触覚:お面作り
- ③味覚:焼き芋
- ※保護者参観



冬5回目(12月11・12日)

- ①五感:コドモリ箱
- ②触覚:フォトフレーム作り
- ③五感:ビデオ振り返り



Q 木育とはどのようなものか知っていますか?

